

# とびのだい周辺の 遺跡・史跡 散策マップ6コース



## Aコース 海神をあるく めやす 2.5 km 40分

博物館→旧日本建鐵正門→海神山緑地→海神支線跡→大覚院(あかもん寺)→入日神社→念仏堂→海神小・善光寺(伝承)→ゴール 東葉高速線東海神駅(海神小前を東に進み JR 船橋駅も可)

## Bコース 海神から行徳街道をあるく めやす 4.7 km 70分

博物館→旧日本建鐵正門→海神山緑地→大覚院(あかもん寺)→入日神社→念仏堂→龍神社→山野境馬頭塚→行徳街道→庚申塚(市川市)→福泉寺(市川市)→日枝神社(市川市)→ゴール JR 線西船橋駅

## Cコース 国道14号線に沿って寺社を訪ねてあるく めやす 5.3km 80分

博物館→海神山緑地→海神支線跡→大覚院(あかもん寺)→入日神社→龍神社→山野浅間神社→春日神社→正延寺→成瀬地蔵→庚申塔・道標→勝間田公園→葛飾神社→羽黒神社→ゴール 京成線東中山駅

## Dコース 印内・古作の遺跡をあるく めやす 5.1km 80分

博物館→海神台西遺跡→印内台遺跡群→八坂神社・光明寺→熊野神社・古作掘込遺跡→げやき公苑・古作貝塚→東中山台遺跡群→ゴール 京成線東中山駅

## Eコース 行田無線塔跡から塚田をあるく めやす 3.8km 60分

博物館→海軍用地石標→諏訪神社→無線塔記念碑→第4無線塔跡地→馬頭塚→八幡神社→ゴール 東武線塚田駅

## Fコース 行田無線塔跡から葛飾川をあるく めやす 5.9km 90分

博物館→海軍用地石標→諏訪神社・庚申塔→海軍用地石標→無線塔記念碑→第3無線塔跡地→馬頭塚→熊野神社→明王院→妙見神社→葛羅之井→宝成寺→勝間田公園→庚申塔・道標→ゴール JR 西船橋駅

- 凡例
- 遺跡範囲
  - 説1 博物館および埋蔵文化財説明板
  - 財1 指定・登録文化財
  - 卍 コースにある神社
  - 卍 コースにある寺
  - コース内見学場所
  - 船橋名木10選の木

船橋市全図1(平成28年)より 1:10,000  
0 100 500 1000m

※徒歩で1kmを15分程度をめやすとしています。  
※見学する時間は含みません。

# とびのだい周辺の 遺跡・史跡 散策解説

## ガイドマップのご利用にあたって

- このマップには、当博物館周辺の遺跡や史跡を紹介してあります。およそ2～3時間で見て回れるコースを6コース紹介してあります。博物館からの帰途などに訪ねてみて下さい。
- このガイドマップで紹介した資料は、当博物館に展示してあるものもあります。是非、ご覧になって下さい。
- とくに立ち入って見学を希望する場合は、地権者に許可を得て下さい。むやみに立ち入って作物を荒らしたりしないように節度を守って下さい。
- 指定文化財の中には、秘仏や公開される日が限定されるものもあります。詳細については、船橋市教育委員会文化課（Tel 047-436-2898）へお問い合わせ下さい。

編集／発行 船橋市飛ノ台史跡公園博物館  
〒273-0021 千葉県船橋市海神 4-27-2  
Tel 047-495-1325  
令和7年3月31日（第4版）発行

## 飛ノ台貝塚 とびのだいかいづか 博物館・公園 説1 説9

昭和7年から発掘調査が行われた縄文時代早期（8000年前）を中心とする遺跡。炉穴が日本で最初に発見され、昭和時代前半には、多くの考古学者が学術的な調査を行いました。今までに、早期の竪穴住居跡21軒、炉穴400基以上、貝塚、集石、墓などが発見され、平成9年には、史跡として船橋市指定文化財に登録されました。平成12年に、遺跡を保存した史跡公園と出土資料を展示する博物館がオープンしました。



飛ノ台史跡公園博物館

## 海神台西遺跡 かいじんだい にしいせき

飛ノ台貝塚の西側台地上にある旧石器時代、古墳時代から平安時代の集落遺跡。台地の一番標高の高い地点で、7世紀代の方形区画墓という古墳が発見されました。墓を区画した溝から出土した大型の須恵器の甕は、墓前の祭りで使われたものと考えられています。



須恵器大甕

## 印内台遺跡群 いんないだいいせきぐん 説2 説3 説4 説10 説11

西船橋駅北側の台地上に展開する古代から近世初頭の遺跡。500軒を越える竪穴住居跡、道路跡、掘立柱建物跡、中世墓跡などが発掘されました。古代の円面硯、墨書土器、漆紙文書、氏名線刻砥石、卜骨、中世初頭の瑞花双鳳五花鏡、梅花文鏡篋(財6)などが出土し、歴史時代を代表する遺跡です。東中山台遺跡群とともに、古代の下総国葛飾郡栗原郷と推定されています。



瑞花双鳳五花鏡

## 東中山台遺跡群 ひがしなかやまだいいせきぐん 説5 説12 説13 説14

京成東中山駅周辺の台地上に展開する古代から近世の遺跡。古代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、製鉄関連遺構、道路跡等が発見され、「福」「永」「栗」「衛」などの文字の墨書土器が多量に出土したことで有名です。また、戦国時代の館跡や地下式坑(室)、墓、埋葬されたウマなども出土し、日蓮ゆかりの中山法華経寺にも近く、市城南西部の中世を代表する重要な遺跡です。



出土した中世の陶磁器類

## 宝塚遺跡 ほうづかいせき 説8

海神山にある砂丘上の遺跡。昭和17年、防空壕を掘るために横穴を掘ったところ、土師器の高杯や壺が出土しました。のちに考古学者の杉原荘介氏が「和泉式」であるとされましたが、平成11年度の発掘調査で、古墳時代中期（5世紀）の滑石製模造品\*の製作跡であることが判明しました。

\*祭りに用いた鏡や剣などのミニチュアを石で作ったもの

## 古作貝塚 こさくかいづか 説6

考古学史に残る縄文時代後期（3500年前）の遺跡。昭和3年の競馬場厩舎の工事の際、貝輪が入った壺が2点発見され、有名になりました。その後、昭和50年代の調査では、埋葬された60体を超える人骨が発見され、縄文時代の葬制を研究するための良好な資料となっています。



貝輪入り壺(レプリカ)  
川村 寿氏 撮影

## 古作中台遺跡 こさくなかだいいせき

葛飾川谷頭の台地上にある遺跡です。海軍無線塔の第3鉄塔のあった場所が発掘調査されました。鉄塔の工事による攪拌のため上層遺構については発見できませんでした。下層からは、旧石器時代の敲石、ナイフ形石器、剥片などの遺物が出土しました。東葛地方では早くから開発が進み、旧石器時代の調査がされていないままになっているところが多いため、本遺跡は貴重な発掘例となります。

## 古作掘込遺跡 こさくぼっこみいせき

中山競馬場のある台地の南端に位置する遺跡です。奈良・平安時代の集落跡であることが確認されました。遺構として竪穴住居が6軒、掘立柱建物跡9棟、溝状遺構1条が発掘され、遺物として土師器、須恵器が出土しました。

## 船橋市の指定文化財 (財1～6) 注 マップに掲載のもの

表示	種別	名称	員数	所在地または伝承地
財1	市・史跡	飛ノ台貝塚		海神4-260-1 他
財2	県・有形	木造五智如来坐像	5軀	西船3-3-4 (正延寺)
財3	市・有形	木造阿弥陀如来立像	1軀	海神1-17-16 (念仏堂)
財4	市・史跡	葛羅の井		西船6-4-5
財5	市・史跡	成瀬氏の墓 附 墓誌		西船6-2-30 (宝成寺)
財6	市・有考	瑞花双鳳五花鏡・梅花文鏡篋(残欠)	1面・1点	出土地 印内2-280 他

## 船橋の名木10選 (コース内)

- 葛飾神社 西船5 クロマツ ※市指定天然記念物
- 葛羅の井 西船6 ケヤキ
- 光明寺 印内2 ヤブツバキ
- 熊野神社 古作3 タブノキ (伐採後の根元残存)

## 〈コースの見どころ〉

### Aコース 海神をあるく 2.5km 40分

日本建鐵は戦前にできたアルミスチール会社です。海軍戦闘機雷電の部品を作りました。海神山は関東ローム層の上に砂層が重なってできた丘です。海神山緑地(説8)周辺は京成電鉄が昭和初期に「海神別荘地」として売り出した場所です。真言宗の寺院、大覚院は朱色の門から通称「あかもん寺」です。日本武尊東征伝説が伝わる入日神社は、船橋大神宮の元宮といわれています。念仏堂には平安時代末期の阿弥陀如来立像(財3)が安置されています。天道念仏行事が行われていることでも知られています。また、戊辰戦争における「市川・船橋戦争」の政府軍側の戦死者、福岡藩士小室弥四郎とその従卒の墓があります。市川道と行徳街道の分岐点に立てられた市内最古の道標(説16)が境内に移設されています。地藏院は江戸初期にさかのぼることができる真言宗の寺院です。

### Bコース 海神から行徳街道をあるく 4.7km 70分

Aコースの14号線との分岐点から南西へ向かう道が行徳街道です。大覚院、入日神社、念仏堂(Aコース参照)に寄り、道なりに進みます。途中、西海神の鎮守龍神社を訪ねます。境内の池には弘法大師の石芋伝説が残っています。JR跨線橋を渡り、行徳街道に出ます。曲がりくねった道は周囲の区画整理された道路の中に埋没してしまおうです。江戸時代は行徳から成田参詣へ向かう観光道路でもあり、物資の流通のための産業道路でもありました。沿道の馬頭観音や庚申塔に、人や物が行き交っていた一端を見出すことができます。途中で右折し、市川市二俣の日枝神社に寄り、西船橋駅に向かいます。

### Cコース 国道14号線に沿って寺社を訪ねてあるく 5.3km 80分

国道14号線沿いの寺と神社を訪ねます(入日神社まではAコースを参照)。入日神社は海神上組の鎮守です。国道建設に伴い位置が動いています。龍神社は西海神の鎮守(Bコース参照)。今でも富士講が行われている山野浅間神社は北へ続く参道の先、小高い丘の上にあります。浅間神社を祀る山野の鎮守です。春日神社は印内の鎮守。14号線に出て右折し、京成線を渡り右へ線路沿いにいくと木造五智如来坐像(財2)が安置されている正延寺です。元に戻り道路の斜向かいには成瀬地蔵があります。再び京成線を渡り路地を右に入ると勝間田公園です。江戸名所図会にも描かれた池のある景勝地でした。14号線沿いの樹木が並ぶ位置が池の南端でした。西に隣接する葛飾神社は大正時代に熊野神社と合祀し、現在地に移りました。市内最大のクロマツ(財7)が威容を誇ります。東中山駅に向かって右へ行くと二子の鎮守羽黒神社です。

### Dコース 印内・古作の遺跡をあるく 5.1km 80分

遺跡群の地を訪ねるコースです。西へ向かい、海神台西遺跡に入ります。行田団地へ向かう太い道を渡ると印内台遺跡群へ入ります。農道沿いに西へ進みます。JR武蔵野線

の高架をくぐり、バス通りに出ると「印内の重右衛門詰」の説明板(説7)があります。道路を渡り路地を入ると、八坂神社・光明寺があります。境内のヤブツバキが有名です。表通りへ出て、北側にある公園が瑞花双鳳五花鏡と梅花文鏡篋の出土地(説2)(財6)です。中山競馬場へ向かう桜並木を渡ると熊野神社があります。周辺は古作掘込遺跡です。競馬場へ向かう県道に出て競馬場のバス発着場と\*けやき公苑が貝輪入り壺発見地の古作貝塚(説6)です。帰りの南に向かう道は、東中山遺跡群を通ります。

\*けやき公苑は、競馬開催日には入場料(200円)が必要となります。

### Eコース 行田無線塔跡から塚田をあるく 3.8km 60分

行田無線の正式名は、大正4年(1915)開所の船橋海軍無線電信所です。関東大震災の救援活動や太平洋戦争開始の「ニイタカヤマノボレ」を発信したことで有名です。直径800mの円形用地の中心に200mの主塔が立ち(写真)、円周に立つ18本の副塔がそれを支えていました。南から円形道路へ向かう斜めの道は管理道路とし昭和に買収された土地でした。畑と住宅地の境に海軍用地石標が残っています。第3、4鉄塔跡地は、昭和16年改装時に建設した182mの6本鉄塔の跡地です。船橋無線塔記念碑が中心に建立されています(説17)。円形道路東側に行田新田の鎮守諏訪神社があります。塚田へ向かう道には、供養塔を兼ねた道標や馬頭観音が残っています。八幡神社は前貝塚の本村から分村した松島の鎮守です。本殿は市内でも非常に珍しい茅葺き屋根です。



海軍無線電信所主塔  
高さ 660尺  
重さ 3万8千貫  
太さ 6数半

### Fコース 行田無線塔跡から葛飾川をあるく 5.9km 90分

行田(Eコース参照)を回り、葛飾川の流路を下るルート歩きます。第3鉄塔跡地の周辺は古作中台遺跡です。緑豊かな斜面地は葛飾川の谷頭でもあります。西側斜面地に沿って南に進みます。JR武蔵野線の高架をくぐります。上に中山競馬場の監視塔が見える下に、馬頭観音が19基並ぶ一角あります。熊野神社は古作の鎮守です。明王院は真言宗の古刹。妙見神社は寺内の鎮守。道を下ると、大きなケヤキがあります。根本には、大田南畝が銘文を記し、永井荷風も訪ねた葛羅之井(財4)の石碑(写真)があります。宝成寺は市内唯一の大名栗原藩主成瀬氏の菩提寺です。境内には大きな墓石が並ぶ成瀬家の墓(財5)があります。勝間田公園(Cコース参照)の東側一角に庚申塔と道標があります。大正6年(1917)の道標には「無線電信所道」と記されています。

